



今日のトピック **インド株式市場は最高値を更新（2019年4月前半）**
利下げや総選挙での与党勝利を期待

【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	4月4日	1週間	1か月	6か月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.61	1.2	2.5	4.3	▲1.5
ルピー/米ドル (ルピー)	69.16	▲0.3	▲2.5	▲6.0	6.2
金利 (%)					
政策金利	6.00	▲0.25	▲0.25	▲0.50	0.00
10年国債利回り	7.35	0.02	▲0.03	▲0.81	0.05
株式指数					
SENSEX (ポイント)	38,684	0.4	7.3	10.0	17.2

(注) データは2019年4月4日基準。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(ポイント) 【インドの株式、通貨】 (ルピー/米ドル)



(注1) データは2018年4月4日～2019年4月4日。

(注2) ルピー/米ドルは逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント1 株式市場は過去最高値更新

利下げや総選挙での与党勝利を期待

- インド株式市場は、代表的な株式指数のSENSEXが4月2日に過去最高値を更新するなど、堅調な展開が続いています。インド準備銀行（RBI）の利下げや総選挙での与党勝利の観測から、企業の利益成長が拡大するとの見方が強まりました。特に、3月の海外投資家の買い越し額が40億米ドルを超えるなど、海外からの資金流入が加速し、相場を押し上げています。米連邦準備制度理事会（FRB）が利上げを見送る見通しを示したことで、グローバルなリスクオン（選好）が継続し、新興国への資金流入が増えていることが背景です。SENSEX指数の過去1か月のリターンをセクター別にみると、利下げや財務改善への期待から、銀行株を中心に金融セクターが同指数の上昇をけん引しています。

ポイント2 インド準備銀行が連続利下げ

- RBIは4月4日の金融政策決定会合で、市場予想通り、政策金利を6.25%から6.00%へ引き下げました。政策スタンスについては中立を維持しました。RBIは2019/20年度の成長率見通しとインフレ見通しをそれぞれ下方修正しており、市場には更なる追加利下げ観測が残りそうです。ただし、RBIは過去2回の利下げ効果を見極めるため、当面、政策金利を現水準で据え置くとみられます。

今後の展開 選挙情勢が注目される

- 4日のインド株式市場は、RBIの利下げ実施を受けて、材料出尽くしから利食い売りが優勢となり、下落しました。今後は、4月11日から始まるインドの総選挙が、相場の材料として注目されそうです。株式市場を巡る投資環境は基本的に良好とみられますが、株価上昇に伴いバリュエーション面では割安感が乏しいことから、悪材料に反応しやすい点には注意が必要だと思われます。

* 三井住友アセットマネジメントと大和住銀投信投資顧問は4月1日に合併し、三井住友DSアセットマネジメントになりました。

ここもチェック! 2019年3月20日 最高値更新が見えてきたインド株式市場（2019年3月後半）
2019年3月 8日 反発に転じたアジア新興国通貨（2019年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。